

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)

研究課題名 政策情報のユニバーサル化・国際化に関する実証と実践



政策研究大学院大学・政策研究科・教授

ますやま みきたか
増山 幹高

研究課題番号：15H05727 研究者番号：50317616

研究分野：政治学

キーワード：公共政策、政策情報

【研究の背景・目的】

この研究は、誰もがが必要な政策情報を効率的に入手し、政策判断に活用していくには、どのような情報の供給と需要のシステムを構築していくべきかという問題に取り組むものです。具体的には、文字情報主体である現在の情報提供から、非文字情報ということに目を向けた政策情報の活用方策を検討します。また、供給サイドからの一方的な情報提供という現状から、ユーザーの需要に配慮したインタラクティブな情報提供の在り方を検討します。さらに、これまで政策情報の海外への発信は主として情報供給主体の英文化努力に依存していますが、ユーザーが必要な情報にたどり着く検索システムを工夫し、言語的アクセスの障害を取り除くことを検討します。

【研究の方法】

行政情報の利用については、自治体の情報公開制度を通じて市民が必要とする行政情報を包括的に把握し、自治体間の比較や時系列的な分析を行うため、情報開示請求データベースシステムを構築・運用していきます。また、立法情報の利用については、国会審議に関して文字情報・映像情報を包括的に把握し、審議映像を発言のキーワード検索から部分再生することを可能にする国会審議映像検索システムを構築・運用するとともに、音声認識による文字と映像を同刻する技術を地方議会やニュース報道にも応用していきます。さらに、政策情報の国際的発信については、上記の政策情報データベースについて英文入力検索を可能にするポータルサイトを開発・運用し、その汎用的な適応可能性を検証していきます。

【期待される成果と意義】

われわれは情報開示請求データベースや国会審議映像検索システムを開発・一般公開してきましたが、この研究においては、とくに文字情報から非文字情報への拡張、インタラクティブな情報の需要供給、国際的な情報アクセスの改善に重点を置きます。例えば、国会審議映像検索システムは、会議録と審議映像を音声認識によってリンクさせ、審議動画を発言内容のキーワードで検索し、ピンポイントで部分再生するものです。審議映像に字幕を付すことも可能にし、これまで会議録を読むか、音声支援ツールを使うしかなかった視覚・聴覚障害者に国会審議映



像を活用する道を開くことが期待されます。また、審議動画の部分的URLも表示しており、それをSNSでシェアすることが可能です。国会で起きていることは文字によって記録されるものだけではありません。こうした審議映像をピンポイントで活用できるようにすることは、例えば、非言語コミュニケーションとしての「しぐさ」の及ぼす作用を検証するという研究も容易にします。さらに、自動翻訳機能を活用した英文入力による検索インターフェースも開発・運用し、ユーザーを主体とする政策情報の国際的発信モデルを提案していきます。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・増山幹高, 竹田香織, いかに見たい国会審議映像に到達するか?—国会審議映像検索システムの概要—, レヴアイアサン, 56号, 54-79頁, 2015.
- ・Mikitaka Masuyama and Kaori Takeda, Instant Parliamentary Deliberations Are in Our Reach, American Political Science Association, August 28-31, 2014, Washington DC, USA.

【研究期間と研究経費】

平成27年度—31年度 139,900千円

【ホームページ等】

- <http://www3.grips.ac.jp/~clip/>
- <http://gclip1.grips.ac.jp/video/>
- <http://gclip1.grips.ac.jp/disclosure/>